

里山保全活動に参加した企業の社員の感想など

吉武 美保子 (NPO 法人よこはま里山研究所 NORA、NPO 法人新治里山「わ」を広げる会)

キーワード：ネイチャーポジティブ、里山、企業、横浜

昨年 5 月にコロナウィルス感染症が 5 類に移行し、大学や企業からの体験学習等の相談が相次ぎました。企業は I T 系、車系、化学系など。以前は CSR や有志によるボランティア体験でしたが、サステナビリティ・ネイチャーポジティブ、新人研修、といった企画背景があり、プログラムの最後のふりかえりが感想だけではなく、意見交換となることが新鮮でした。わずかな経験だけれど興味深かったので紹介します。

1. 車の製造販売、新入社員研修 36 名の受け入れ

(1) 印象に残ったこと・気づき

(後日いただいたアンケート結果より抜粋)

- ・NORA の方々による今日の研修に向けた事前準備は、私たちのことを想像し、かつ安心安全に参加できるようにしてくれていた。私たちがお客様へ向ける志を、NORA の方々との里山活動から身をもって、人を想う大切さを再確認することができた。
- ・フィールドワークのための事前準備や、危険予知など、先を見据える事の重要性を知った。
- ・先を見据えた行動や、相手を思いやることはこれからの社会人生活で大事なことだと気づいた。
- ・チームで行動するとき、声かけを十分にすることが大事。
- ・里山の活動はチームワークや助け合いの大事さを学べる。
- ・これからも新人研修では里山にかかわる機会をいれてほしい。管理職も経験した方がよい。
- ・数メートル離れただけで育つ植物の違いに驚いた。人も植物も環境で育ち方がかわるのか、と考えさせられた。
- ・植物調査が車種を見分ける勉強の参考になり、息抜きにもなる。
- ・最初は車とは関係のない研修かと思っていたが、自然を守ることや CO2 の問題など、意外にも関係が深く驚いた。
- ・自然との共存について、車社会の中から何ができるのか考え続けたい。
- ・木を伐ることは自然破壊かと思っていたが、全くちがった。
- ・人の手が入った里山には多様な生物がいることを知った。
- ・自然、生態系のバランスを守るためには人の力が必要。
- ・ふだんの暮らしに森林が活躍していることに気づいた。
- ・自然の中で行動すると、日々の疲れやストレスが解消できそう。初めてだったけど楽しかった。
- ・自然を守るとは、自分を守ることと等しいと感じた。次世代にもいい環境をつなぐべきと思った。
- ・活動されている人たちが、人とのつながりや次世代のことを考えて動いていることがわかった。自分もそういった気持ちを大切にしようと思う。

(2) 提供したプログラム

NORA が活動している「川井緑地 (横浜市有緑地、横浜市旭区)」で森づくりの体験。車にかかわる会社であること、新人研修であることを考慮した。事前に 2 回、観察ルートや活動場所の林床整備、

ツタウルシの確認などを行った。

- ① 保土ヶ谷バイパスに隣接した森。森の外と内での音や気温の違いを体感する。
- ② 森の構造や、そこにすむ生き物などの観察。
- ③ 人がどのように利用してきたか。肉桂や山椒などの香りを楽しむ。
- ④ 2m の方形区をすぐそばに 3 つ設け、3 班に分かれて葉っぱの形ごとに何種類あるか調べる。
- ⑤ 材を活用するため、間伐材を力を合わせて運び上げる。
- ⑥ 材を活用、保管するため、間伐した杉の皮むきをする。
- ⑦ 玉切りした材を薪割りする。

2. 50か国以上で IT サービスを提供する企業のサステナビリティ研修

「ボランティア活動を体験させてもらって、里山保全と生物多様性の関係についてレクチャーもお願いしたい」

「近年、サステナビリティやネイチャー (ポジティブ) について社として取り組みをすすめていないと、EU では市場参入することも難しくなっている。しかし、I T 系の私たちは何をすればいいのかよくわからない。持続可能な社会づくりという面で里山のことを知ったので社員有志で学びたい」

11 月～12 月にかけて 2 回、総勢 30 人を新治里山公園で対応した。体験してもらったことは、たい肥の切り返しと運搬、ササですすはらい (くもの巣はらい)、米ぬかで柱磨き。

90 分の体験後、30 分で里山と生物多様性のレクチャー、60 分の意見交換・フリートーク。

始める前まで、ちょっと眉間にシワが寄っていた人が体験後にはすっかり笑顔になっていた。

「本業としては、一般的な行動、例えば節電とか再生紙利用とか当たり前のこと以外に、再生可能エネルギーを推奨する、ということくらいしか思い浮かばないけれど、今日の体験は、自分たちの暮らしそのものを見直すことが大事なのでは、と思った」

「そういう日常の暮らしを変えるチャレンジを応援する会社であることが必要なのでは」

「自分はドイツ出身だが、日本や企業はおかしい。自販機は多いし、ペットボトルも多いし、ムダにエネルギーを使っている。自転車で通勤しようとしたら許可されなかった。本気で環境のことを考えているとは思えない」

ハーブティを飲みながら、部局を超えて「何ができそうか」語る社員の方々。暗くなった夕方には近所にあるクラフトビール工房で引き続き語り合ったそうです。

NORA の HP に関連することが掲載されているので、ぜひご覧ください。

NPO 法人よこはま里山研究所 2024.6.1 雨の日も里山三昧

「ネイチャーポジティブにノってみた」松村正治

<https://nora-yokohama.org/reading/?p=8869>